



東日本大震災からはや1年

昨年3月11日午後2時46分、国内観測史上最大規模の巨大地震、東日本大震災により、東北・関東地方の太平洋側沿岸は大津波が達し、甚大な被害を受けました。

この未曾有の被害をもたらした東日本大震災を受け、連合群馬では災害対策救援本部を設置し、構成組織組合員とご家族の協力をいただく中で、被災地の支援活動を展開してきました。

東日本大震災から1年を迎え、多くの犠牲となった方への追悼と被災地の復興を願うとともに、連合群馬で取り組んだ各種取り組みについて報告いたします。



福島県相馬市海岸から5km (2011.5.26撮影)



救援物資の仕分け (2011年3月) 地協のカンパ活動 (2011年5月)

◎救援カンパ

2011年4月から活動し、2012年2月末現在の集約<集約結果>

組織名等	金額
構成組織・労福協・関係団体	910,895
地協 (フェスティバル)	2,320,525
地協 (駅・街頭、行事、他)	1,336,476
県連合 (駅・街頭、行事、他)	250,196
その他	163,820
連合群馬青年・女性委員会	(51,920)
連合群馬親交会	(111,900)
合計	4,981,912

※その他、一般会計より1,000,000円

福祉基金より1,500,000円を拠出

合計： 7,481,912円

◎ボランティア

派遣先：岩手県・福島県

派遣期間：2011年5月2日～9月25日

派遣総数：51名 (男性48、女性3)

スタッフ・スタッフリーダー4名

災害救援ボランティア 事務局3名、16産別・44名

◎救援物資

群馬県と連携し、2011年3月15日～4月15日の間で産別・地協から集約し、被災地へ搬送

タオル類	7,427点	毛布類	233点
靴	28点	日用品	6,870点
衣類など	2,926点	合計	17,484点

青年委員会が労福協と連携し長野県栄村除雪作業ボランティアを実施!

連合群馬青年委員会は、ぐんま労福協との共催で、2月25日～26日にかけて、47名が長野県下水内郡栄村において震災復興支援ボランティアを実施しました。青年委員会は震災以降、義援金カンパ活動などのボランティアに取り組んできましたが、他にも何かできないかとの思いから、今回、ぐんま労福協と連携により除雪ボランティアが実現しました。

3月12日に発生した地震で栄村では、今も多くの方が避難所生活を余儀なくされており、例年以上の降雪のため除雪が間に合わず、不安な生活を送っていることを知りました。

1日目は、栄村青倉地区の仮設公民館やお年寄りの住宅、倉庫、道路などの除雪作業を行いました。

翌日は、別の住宅や車庫



取り除いた雪を移動する

などの除雪を行い、住民の方から喜ばれました。また、豪雪の影響だけではなく、地震の被災状況を知ることができ、ボランティアとして参加できたことの意義を確認することができました。

参加者からは、「貴重な体験ができた」、「感謝の言葉がもらえて励みになった」などの感想が出されました。



豪雪の除去に大奮闘



ボランティアに参加した皆さん